

2011-B					
拠出金・基金の名称:		国際連合大学拠出金			
種 別		イヤーマーク ノン・イヤーマーク			
拠出先の国際機関名: 国際連合大学 (UNU)					
【所管官庁担当局課・室名】: 農林水産省大臣官房国際部国際協力課					
【当該任意拠出金の目的・用途等】 国際連合大学に拠出し、持続的な農業のための研究推進と一体となった実習型の研修を通じた途上国の研究能力の向上と、現地に根ざした技術の着実な普及を図り、世界の食料増産に貢献する。					
最近3年間の我が国支払額及びODA率					
単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千ドル)	外貨2 (千)	レート	ODA率 (%)
平成23年度	45,859	515	-	1米ドル = 89円	100
平成22年度	-	-	-	-	-
平成21年度	-	-	-	-	-
【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】 途上国農業の生産性と持続性を向上させるためには、新しい品種や技術を途上国各地の環境に応じて最適化させた上で、普及させる必要がある。しかしながら、途上国では十分な能力を持った研究者が少なく技術力が脆弱であるため成果の普及が進みにくい。これらのことから、研究推進と一体となった実習型の研修を通じた途上国の研究能力の向上に資する本事業の必要性は高い。 加えて、本事業は、平成21年11月のAPEC食料安全保障担当大臣会合で採択されたAPEC行動計画に位置付けられると共に、平成23年10月ASEAN+3農林大臣会合の新規協力案件としても承認されており、一定の評価を得ている。 なお、平成23年度は、18件の研修プログラムを実施し、19ヶ国35名の途上国若手研究者の育成を実施した。また、研修で習得した技術が現地に着実に適用されるよう、研修終了後のアクションプランを作成させるとともに、アクションプランに基づいた実施状況を確実にフォローアップするなど、効率的かつ効果的な事業運営を行った。					